

現場でできる！ヒジキ増殖方法！

ヒジキ資源管理・増殖手法の開発(平成25年度)

水産研究部 浅海・内水面グループ 浅海チーム

1. 研究の背景

- ・国産ヒジキの需要急増による価格高騰
- ・漁業収入の減少をヒジキ採取で補う
- ↓
- ・ヒジキの乱獲で資源の激減・枯渇が懸念
- ↓
- ・現場でできる増殖手法の開発 →新たに安価な着定基質(ブロック)を設置してヒジキを採苗しよう！
→増やしたい海域に採苗したヒジキを移植しよう！

…基質はいつ頃、どのように設置したら良い？ → 現地での生態調査で解明しよう！

2. 研究成果の内容・普及のポイント

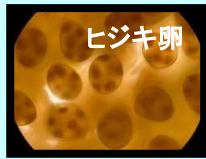
- 現場での生態調査で ①ヒジキの成熟時期 ②ヒジキが好む水深帯 を把握しました。

①成熟時期は？

水温に關係

県南では
5月頃が盛期

県北では
7月頃が盛期



同じ大分県内でも県南～県北では成熟時期が違う！

②水深帯は？

生育に適する水深帯があった！
国東市での試験結果

多数のヒジキ
幼体が発生！

水深帯の範囲
DL※ 20～90cm
濃密範囲
DL※ 20～50cm



最適な採苗基質の設置時期や設置水深帯を確定できた！

実践！
普及！

※「最低水面」といわれ、海図の水深
や潮汐表の潮位と同じ値です。

- 漁業現場で実践、普及を展開中です！



ブロック設置 国東市
(平成25年7月)



ヒジキ卵が着定し成長
(平成25年10月)



成長したヒジキ
(平成26年2月)

3. 期待される効果

- ・自然に放出されるヒジキ卵を、安価な建材ブロックに確実に採苗して確保できる。
- ・採苗翌年は、成長したヒジキからの卵放出 → ヒジキ資源の増大へ。
- ・増やしたい海域に、ヒジキをブロックごと移植することが可能。→ 移植先でのヒジキ資源の増大へ。
- ・漁業現場で即、実践、普及できる技術。資材も安価。

4. 担当機関連絡先

水産研究部 浅海・内水面グループ 浅海チーム
TEL: 0978-22-2405
住所: 豊後高田市呉崎3386番地